

# JR九州連合情報

## JR九州連合第33回定期大会を開催！！

JR九州グループ労働組合連合会（JR九州連合）は11月29日、福岡市内において第33回定期大会を開催した。「JR九州グループを取り巻く変化に着実に対応し、安全・安心で将来に希望が持てる活動を推進しよう！」のスローガンのもと、会場に参集した執行部・代議員の総勢約60名が熱心かつ真摯な議論により、2023年度の活動方針を満場一致で決定した。

冒頭、幹事会を代表して挨拶した吉田祥司会長（JR九州労組・中央執行委員長）が安全の確立、組織の強化・拡大、諸労働条件の回復、政策課題の実現に向けた取り組みについて所信を述べた。

来賓では、こくみん共済coop福岡推進本部福岡支所より中村俊哉支所長と二宮祐樹係長、JR連合より荻山市朗会長にお越しいただき、連帯の挨拶をいただいた。荻山会長は挨拶で、安全の確立やこくみん共済coop契約移転の情勢について触れたうえで、①コロナ禍からの反転攻勢、②産業政策、③2024春季生活闘争、④組織拡大・充実の4点に亘って課題認識とその解決にむけた取り組みについて所信を述べた。

議事では、幹事会より①2022年度活動経過、②決算報告、③会計監査報告、④2023年度活動方針案、⑤2023年度予算案が提起された後、4名の代議員より「組織の強化・拡大」、「政策活動の推進」、「日田彦山線BRTの現状と課題」、「駅体制の見直しに伴う課題」、「ホテル業界における人材不足」について発言があり、方針案を補強した。



JR九州連合 吉田会長（左）  
鎗光事務局長（右）



JR連合 荻山会長



その後、鎗光俊勝事務局長（JR九州労組・中央執行副委員長）は総括答弁で「JR九州連合の活動の源泉は働く仲間の声を拾い、助け合い、支え合うことにある。すべての仲間が生き生きと働き、明るい将来展望を描くことができる仕事・職場を創りあげるため、加盟単組一丸となって組織力を高め、ポストコロナの反転攻勢にむけ全力で取り組んでいく」と決意を述べた。全議案を満場一致で決定した後、最後に吉田会長の団結がんばろうで締めくくった。

## JR九州グループ中期経営計画を全体で共有！



大会の前段では、JR九州グループを取り巻く経営環境の現状や課題認識について参加者全体で共有を図るべく、JR九州人事部の池田裕記担当部長を講師として招き、「JR九州を取り巻く経営環境（中期経営計画の進捗状況等）」をテーマとした勉強会を開催した。JR九州連合は、社会変容やDX推進をはじめとした取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、多様なニーズと向き合い、働く者の立場から現状や課題を見定め、JR連合をはじめ、あらゆる関係機関と連携・協働し、政策展開を行っていくこととする。